

高等学校 令和6年度（1年次用）

教科 国語

科目 言語文化

教科：国語

科目：言語文化

単位数：2 単位

対象学年組：第 1年次 E 組～ F 組

教科担当者：（E組：丸山 ） （F組：鎌田 ）

使用教科書：（ 第一学習社 言語文化 ）

教科 国語

の目標：

【知識及び技能】 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 社会生活における他者とのかかわりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。

【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

科目 言語文化

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者の関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えと広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉が持つ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、言語文化の担い手として自覚を持つようとしている。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域		評価規準	知	思	態	配当 時数	
		話・聞	書・読						
1 学 期	A 単元名：古文入門 【知識及び技能】 時間の経過による言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解を深めることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。（以下、同）	・指導事項 古典の文章に慣れさせる。説話という文章の種類を理解する。歴史的仮名遣いや古今異義語について、文語のきまりを理解する。古語辞典の引き方を理解する。 ・使用教材 「児のそら寝」（『宇治拾遺物語』） ・一人1台端末の活用について 課題の作成、リフレクションシートの作成等		○ 【古典】	【知識・技能】 古文を読むための文語の決まりや古典特有の表現について理解を深めている。 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、説話という文章の種類を踏まえて、内容や展開を捉え、内容を解釈している。 【主体的に学習に取り組む態度】 積極的に説話を読み味わい、話の面白さを伝え合おうとしている。	○	○	○	5
	B 単元名：古文に親しむ 【知識及び技能】 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解を深めることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 （同上）	・指導事項 古典を読むために必要な文語のきまり（活用や活用形、係り結び、仮定条件、確定条件など）について指導をする。 ・使用教材 「絵仏師良秀」（『宇治拾遺物語』） ・一人1台端末の活用について 課題の作成、リフレクションシートの作成等		○ 【古典】	【知識・技能】 本文中に登場する、我が国の言語文化に特徴的な語句・語彙の文化的背景を理解し、語感を磨き語彙を豊かにしている。 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、古典の文章に慣れるとともに、古文における人物造形のおもしろさを読み取っている。 【主体的に学習に取り組む態度】 叙述に基づいて人物造形のおもしろさを捉えようとしている。	○	○	○	6
	定期考査					○	○		1
C 単元名：日記 【知識及び技能】 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、語感を磨き語彙を豊かにできる。 【思考力、判断力、表現力等】 作品に表れている批評や諧謔の精神と、亡児追憶の心情を捉え、内容を解釈することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 （同上）	・指導事項 日記という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉え、作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈している。 ・学習材 「門出」『土佐日記』 ・教科書、文法書、便覧、一人1台端末の活用 等		○ 【古典】	【知識・技能】 古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現、時間の経過などによる言葉の変化について理解を深めている。 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、日記という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉え、作品に表れているものの見方や考え方について根拠をもって説明している。 【主体的に学習に取り組む態度】 学習課題に沿って異なるテキストを読み合わせ、わかったことを積極的に伝え合おうとしている。	○	○	○	5	

	<p>D 単元名：近現代の詩歌</p> <p>【知識及び技能】我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解することができる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】(同上)</p>	<p>・指導事項 作品に表れている情景や心情を鑑賞し、自分のものの見方、感じ方を豊かにする。</p> <p>・使用教材 「贅のうへ」「一つのメルヘン」</p> <p>・一人1台端末の活用について 課題の作成、リフレクションシートの作成等</p>			<p>○【知識・技能】我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解している。</p> <p>○【思考・判断・表現】「読むこと」において、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。</p> <p>○【主体的に学習に取り組む態度】詩歌の形式や表現を進んで理解し、学習の見直しをもって詩歌に親しもうとしている。</p>	○	○	○	6
	定期考査					○	○		1
	<p>E 単元名：随筆(一)</p> <p>【知識及び技能】自由な文体の随筆という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉えることができる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈することができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】(同上)</p>	<p>・指導事項 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 作品に表れた美意識を積極的に理解し、学習課題に沿って自分の考えを伝え合えるようにする。</p> <p>・使用教材 「中納言参りたまひて」(『枕草子』)</p> <p>・一人1台端末の活用について 課題の作成、リフレクションシートの作成等</p>			<p>○【知識・技能】古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現、時間の経過などによる言葉の変化について理解を深めている。</p> <p>○【思考・判断・表現】「読むこと」において、随筆という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉え、作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈している。</p> <p>○【主体的に学習に取り組む態度】学習の見直しをもって随筆のさまざまな文体や取り上げられた対象に触れ、進んで解釈を深めようとしている。</p>	○	○	○	5
	<p>F 単元名：随筆(二)</p> <p>【知識及び技能】『枕草子』とは異なる思索的な随筆を読んで、作者の批判的精神が提示する事柄を具体的に読み解くことができる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】さまざまな文体を駆使した随筆という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉えることができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】(同上)</p>	<p>・指導事項 『枕草子』とは異なる思索的な随筆を読んで、作者の批判的精神が提示する事柄を具体的に読み解く。</p> <p>・使用教材 「ある人、弓射ることを」(『徒然草』)</p> <p>・一人1台端末の活用について 課題の作成、リフレクションシートの作成等</p>			<p>○【知識・技能】我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、語感を磨き語彙を豊かにしている。</p> <p>○【思考・判断・表現】「読むこと」において、随筆という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉え、作品に表れているものの見方や考え方について根拠をもって説明している。</p> <p>○【主体的に学習に取り組む態度】本文中に表れた作者の批判・教訓・感動などを積極的に読み取り、考えたことを伝え合おうとしている。</p>	○	○	○	6
2 学 期	定期考査					○	○		1
	<p>G 単元名：古典の和歌</p> <p>【知識及び技能】我が国の伝統文化の一つである和歌の鑑賞のしかたを理解し、黎明期・発展期・成熟期の和歌の特色を捉えることができる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】(同上)</p>	<p>・指導事項 和歌の修辞法などの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解する。 和歌の内容や展開を的確に捉え、作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。</p> <p>・使用教材 『万葉集』、『古今和歌集』、『新古今和歌集』</p> <p>・一人1台端末の活用について 課題の作成、リフレクションシートの作成等</p>			<p>○【知識・技能】和歌の修辞法などの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解している。</p> <p>○【思考・判断・表現】「読むこと」において、和歌という文章の種類を踏まえて、情景や心情など、内容や展開を的確に捉えている。</p> <p>○【主体的に学習に取り組む態度】作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈しようとしている。</p>	○	○	○	6
	<p>H 単元名：近代以降の文章に親しむ</p> <p>【知識及び技能】文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解することができる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価することができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】(同上)</p>	<p>・指導事項 自分の考えが的確に伝わるように、根拠の示し方や説明の仕方を工夫するよう指導する。</p> <p>・使用教材 『鏡』 ※「現代の国語」の教科書を副教材として使用</p> <p>・一人1台端末の活用について 課題の作成、リフレクションシートの作成等</p>			<p>○【知識・技能】文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している。</p> <p>○【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。</p> <p>○【主体的に学習に取り組む態度】粘り強く文章を読んで自分の考えを深め、考えが伝わるように工夫してまとめようとしている。</p>	○	○	○	9
	定期考査					○	○		1

	<p>I 単元名：漢文入門</p> <p>【知識及び技能】 漢文・漢詩の世界に親しむために、漢籍を読むために必要な訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解を深めることができる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 漢文の訓読に慣れるとともに、現在使われている言葉が漢文に由来することを理解することができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 (同上)</p>	<p>・指導事項 漢文を訓読するための基礎知識を習得する。史伝という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。表現や技法（押韻や対句）に留意して漢詩を鑑賞し、古代中国の人々が自然や人事に向けた思いを読み取る。</p> <p>・使用教材 「狐借虎威」</p> <p>・一人1台端末の活用について 課題の作成，リフレクションシートの作成等</p>			○	【古典】	<p>【知識・技能】 漢文の世界に親しむために、漢文を読むために必要な訓読のきまり、漢文特有の表現などについて理解を深めている。</p> <p>【思考・判断・表現】 「読むこと」において、表現や技法に留意して故事成語・史伝・漢詩を鑑賞し、古代中国の人々の考え方や感じ方また自然や人事に向けた思いを読み取っている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 書かれている内容を粘り強く読み取り、そこに表れたものの見方、感じ方、考え方を捉えようとしている。</p>	○	○	○	7
3 学 期	<p>J 単元名：歌物語</p> <p>【知識及び技能】 話の中で和歌が果たしている役割を押さえ、歌物語の特徴と読み解き方を理解することができる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にすることができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 (同上)</p>	<p>・指導事項 古典を読むために必要な文語のきまりや言葉の変化について理解を深めている。歌物語という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉え、内容を解釈している。主として用言の活用について、文語のきまりを理解する。</p> <p>・学習材 「筒井筒」（『伊勢物語』）</p> <p>・一人1台端末の活用について 課題の作成，リフレクションシートの作成等</p>		○		<p>【知識・技能】 作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈している。</p> <p>【思考・判断・表現】 「書くこと」において、自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、短歌を創作している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 歌物語に積極的に親しみ、学習課題に沿って和歌の果たす意味を捉え、主体的に短歌を創作しようとしている。</p>	○	○	○	10	
	定期考査						○	○		1	
		計		70							